

e ラーニングの先進的事例調査報告書（案）

平成 25 年 7 月 9 日

様

大学間連携共同教育推進事業

研究員 小田奈緒美 ㊞

大学間連携共同教育推進事業「愛知県内教員養成高度化支援システムの構築」プロジェクトにおいて、「e ラーニングの先進的事例」の視察を行ったので、その結果を下記のとおり報告します。

記

1. 調査日時	平成 25 年 6 月 21 日（金）14：00～17：00（3H）
2. 視察先	明治大学 教育支援部ユビキタス教育推進事務室 2052 室、収録教室 〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1 TEL：03-3296-4458 FAX：03-3296-4525
3. 視察目的	平成 24 年度文部科学省大学改革推進等補助金「大学間連携共同推進事業—愛知県内教員養成高度化支援システムの構築—」の採択により、国公立の 5 大学が、愛知教員養成コンソーシアムを構成し、事業を実施する。事業の実施にあたり、国内における遠隔講義を実施する大学を実地視察するとともに、担当者からの情報収集および意見交換を行うことで、5 大学間での遠隔講義の開講に有効な手法を発見することを目的とした。
4. 視察内容 （調査）	① 資格課程について ② 図書館司書講習について ③ e ラーニングの実施について
5. 参加者 （大学別・ 敬称略）	・愛知県立大学 教育福祉学部 教授 木幡洋子 ・愛知県立大学 学務部・学務課主事 岩佐啓子 ・桜花学園大学 学務部・教務課係長 長坂達弘 ・桜花学園大学 システム担当 田中 一夫 ・名古屋学芸大学 教職課程 教授 安井克彦 ・名古屋学芸大学 教務部長 教授 釜賀雅史 ・名古屋学芸大学 教務部・教務課長 三浦正光 ・愛知教育大学 教育養成高度化センター長 教授 添田久美子 ・愛知教育大学 大学間連携共同教育推進事業 研究員 小田奈緒美
6. 所見	別添えのとおり

目次

視察概要	2
e ラーニングの先進的事例調査報告書	3
1. 視察先概要	3
2 事業内容	5
2.1 教務事務部資格課程事務室	5
2.2 学術・社会連携部社会連携事務室（リバティアカデミー）	6
2.3 教育支援部ユビキタス教育推進事務室（ユビキタスカレッジ）	6
3 視察内容	10
3.1 視察・インタビュー実施事項	10
3.2 明治大学側出席者（3 部署 4 名）	10
3.3 視察者側出席者	10
3.4 視察・インタビュー議事録	12
3.4.1 資格課程事務室	12
3.4.2 リバティアカデミー	14
3.4.3 ユビキタス教育推進事務室	16
4. まとめ	21
5. （参考）司書講習（メディア授業）ガイダンス視察内容	22
5.1 視察実施情報	22
5.2 参加者	22
5.3 大学側スタッフ	22
5.4 実施概要	22
5.5 受講生とのやりとり状況	23
5.6 まとめ	23

視察概要

■ 視察経緯

本プロジェクトにおける今年度の事業展開としては、まずは各種資格取得プログラムから取りかかるとして平成 25 年度第 1 回実務者会議にて承認を受けた。特に、学校図書館司書教諭資格は、12 クラス以上の学校では学校図書館司書教諭を置く必要があることから、現場では資格取得者のニーズがあることがわかっている。また、現在は 2 年かけて取得する資格を e ラーニングの導入により 1 年に短縮できれば、学生等受講生のニーズを満たすことができる。さらに、学芸員は 19 単位の履修が必要であるが、学校図書館司書教諭は 5 科目 10 単位と取組やすいことから、資格取得プログラムの中でも、学校図書館司書資格取得コンテンツの開発を実施することとした。

そこで、学校図書館司書教諭関連授業を e ラーニングにて実施している先行的な事例を視察することで、本年度の実施事業に活かしたいと考えた。中でも、明治大学では e ラーニングのコンテンツ制作および受講生のフォローに専門家を導入していることを、大学 HP にて詳細に説明していたことから、本プロジェクトにおいて、今後コンテンツを作成するうえで、有益な情報を得ることができると考え、明治大学にて視察を実施することとした。

■ 視察先

視察先は、学内の e ラーニングコンテンツ制作にシステム的に関わっている①ユビキタス教育推進事務室、学内の資格取得状況を把握している②資格課程事務室、社会人向けの e ラーニング講習を実施している③社会連携事務室の各担当者から、取組を説明していただき、その後意見交換を実施することとした。

■ 視察概要

① ユビキタス教育推進事務室

- ・ e ラーニングの授業は、5 年程導入の経験があり、年々受講学生が増えていることから、問題なく受け入れられていると考えられる。
- ・ 教員の負担は、あまりないとのことであった。LMS を利用することにより、小テスト等の採点にかかる負担は避けられ、授業内容に関する質問もそれ程多くない。ただし、社会人の司書資格取得のメディア講習では、学生に比べ質問は多く、システムに関する質問もあるが、事務員が対応している。

② 資格課程事務室

- ・ 学校図書館司書および司書関連科目では、同じ科目でメディア授業と対面授業の両方を開講している。
- ・ 受講生は年々メディア授業を選択する数が多くなっている。

③ 社会連携事務室

- ・ 司書講習（メディア授業）は、100 名の定員に対し毎年 300～400 名の応募があり、小論文による受講者の選定を行っている。（受講人数は指静脈認証機器の貸出数で決定）

e ラーニングの先進的事例調査報告書

小田奈緒美

1. 視察先概要

明治大学は「近代市民社会を担う聡明な若者を育成する」ことを目指し、1881 年にフランス法の自由民権思想を学んだ青年法律家らが創設した。大学本部及び文系学部・大学院等は、文化・文教施設が集積し、“日本のカルチエ・ラタン”とも呼ばれる国内最大の学生街、御茶ノ水に立地[1]。東京都心部に位置する都心型総合大学であり（理系キャンパスは郊外に立地）、例年国内最大規模の入試が行われている。

文部科学省の国際化拠点整備事業（グローバル 30）、グローバル COE プログラムへの選定や、文部科学省 GP、私立大学学術研究高度化推進事業等で多数の教育・研究プログラムが採択されている。IT 政策でも国内最先端を歩み、大学情報サミットの創設により有力私大の情報関連部門との連携を強めている。

明治法律学校を起源としているが、商学部、経営学部を私学で初めて設置するなど、伝統的に商学でも知られる。また、人文系でも演劇学、考古学等、歴史・伝統をもつ専攻を多く有す。大学院では、毎年国内トップクラスの国家試験実績を上げる法科大学院、会計大学院の他、現職市長・議員が院生として最も多く在籍することで知られる公共政策大学院などがある。

社会に開かれた大学を志向し、1999 年に設立した『リバティアカデミー』は大学のもつ知的資産と大学院・図書館・博物館等の生涯教育部門をネットワーク化、多くの会員を集め年々規模は拡大され 2010 年前期は 220 講座を開設した。

【所在地】

- ・駿河台キャンパス（東京都千代田区神田駿河台）
- ・和泉キャンパス（東京都杉並区永福）
- ・生田キャンパス（神奈川県川崎市多摩区東三田）
- ・中野キャンパス（東京都中野区中野※2013 年開設予定）
- ・八幡山グラウンド（東京都世田谷区八幡山）
- ・駿河台キャンパス

東京都心部に位置し、街のランドマークでもある『リバティ・タワー』を中心とした都心型キャンパスである。



< 駿河台キャンパスマップ >

出典：明治大学 HP：http://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/suruga/campus.html

使用学部： 法学部・商学部・政治経済学部・文学部・経営学部・情報コミュニケーション学部の各学部3・4年

使用研究科：大学院法学研究科、商学研究科、政治経済学研究科、経営学研究科、文学研究科、ガバナンス研究科、グローバル・ビジネス研究科、会計専門職研究科、法務研究科、理工学研究科（新領域創造専攻）

使用附属施設：法人本部など

交通アクセス：JR 中央線・総武線、東京メトロ丸ノ内線 御茶ノ水駅

東京メトロ千代田線 新御茶ノ水駅

東京メトロ半蔵門線、都営三田線・都営新宿線 神保町駅

2 事業内容

2.1 教務事務部資格課程事務局

① 司書・司書教諭課程室

司書・司書教諭課程室は、司書・司書教諭に関する学習をサポートするために設置された。資料の閲覧や図書館に関する各種相談にも課程室担当者が応じている。また、採用情報も取り揃えており、随時確認することができる。

＜司書・司書教諭課程室の特色＞

学生の自習スペースとして資料(図書・雑誌・ビデオ)を備えつけ、自学・自習の環境を整えた。開室時間中は資料の閲覧および教材用ビデオの視聴ができる。また、書籍は貸し出しも行っている。

情報提供掲示板を設け、求人や採用試験に関わる情報提供をしている。また各種講習会や関連団体機関の案内もしている。

司書・司書教諭課程室担当者が授業や就職、採用試験などに関する質問、相談に応じている。

② 学芸員養成課程実習室

学芸員養成課程実習室では、博物館での実務実習に関するサポートを行っており、博物館及び博物館実習に関する資料の閲覧や実習についての各種相談ができる。また、美術品資料の取り扱いや博物館資料の梱包の授業等も博物館実習の一環として行っている。

＜学芸員養成課程実習室の特色＞

当実習室担当者が博物館実習に関する質問・相談に応じます。専任教員への相談も可能である。博物館実習に関する過去のデータを閲覧できる。大学に送られてくる学芸員採用情報や博物館の展覧会情報についても実習室で自由に閲覧できる。博物館実習関係のビデオ教材も閲覧できる。全国の博物館に関する資料・雑誌等の閲覧ができる。

③ 社会教育主事課程室

社会教育主事課程室では、社会教育関係の資料の閲覧や自習をすることができる。また、開室時間内であれば自由に出入りすることができる。

＜社会教育主事課程室の特色＞

学生の自習・交流スペースとして資料(図書・雑誌・ビデオ)を備えつけ、学生の自習・交流の環境を整えた。開室時間に入室し、資料などを閲覧することができる。書籍は貸し出しも行っている。グループ利用に関してはパソコン利用も可能である。

＜情報提供＞

掲示板を設け、求人等の情報提供をしている。また各種催しの案内もしている。

＜相談＞

担当者(司書・司書教諭課程室兼担)が質問、相談に応じる。

2.2 学術・社会連携部社会連携事務室（リバティアカデミー）

リバティアカデミーは、本学の教育・研究成果を体系的に展開する生涯学習の機関として1999年に創立された。本学の教員が主にコーディネーターとなり、ビジネス、資格・実務・語学、教養・文化など多様な分野で約400講座を開講し、16,000人以上が学んでいる。

2013年4月から新たに「中野キャンパス」「生田キャンパス」での講座を開設する。中野キャンパスでは、ビジネスプログラムや教養・文化講座に加え、新設の総合数理学部の学びに触れることができる講座を開講。生田キャンパスでは、農学部・理工学部に関する内容や地域の歴史を学ぶ講座を展開する。従来から展開する駿河台キャンパス・和泉キャンパス・黒川農場と合わせた5拠点で、一層充実した内容で社会に開かれた生涯教育講座を実施する。



リバティタワー

最新設備を備えた地上23階・地下3階の校舎（高さ約120m）。

大教室からゼミナール教室などあらゆる授業に対応する教室や、スポーツホール、図書館、学部事務室などがある。

2.3 教育支援部ユビキタス教育推進事務室（ユビキタスカレッジ）

21世紀は「知識基盤社会の時代」と位置付けられている。大学の学部・大学院教育には、「新たな知の創造・継承・活用」に応える「教育機能の充実」だけでなく、「幅広い教養を身に付け、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、あるいは社会を改善していく資質を有する人材＝『21世紀型市民』を多数育成していく」ことが求められている。

このような知識基盤社会の到来に向けて、「誰もがどこでも学べる高等教育＝『ユニバーサル・アクセス』の実現」に向けて「競争的環境の中での各高等教育機関の個性・特色」を一層明確化することが必要であるという考えから、本学のユニバーサル・アクセスの飛躍的拡大を目指して、ユビキタスカレッジは設置された。

明治大学ユビキタスカレッジ構想への展開

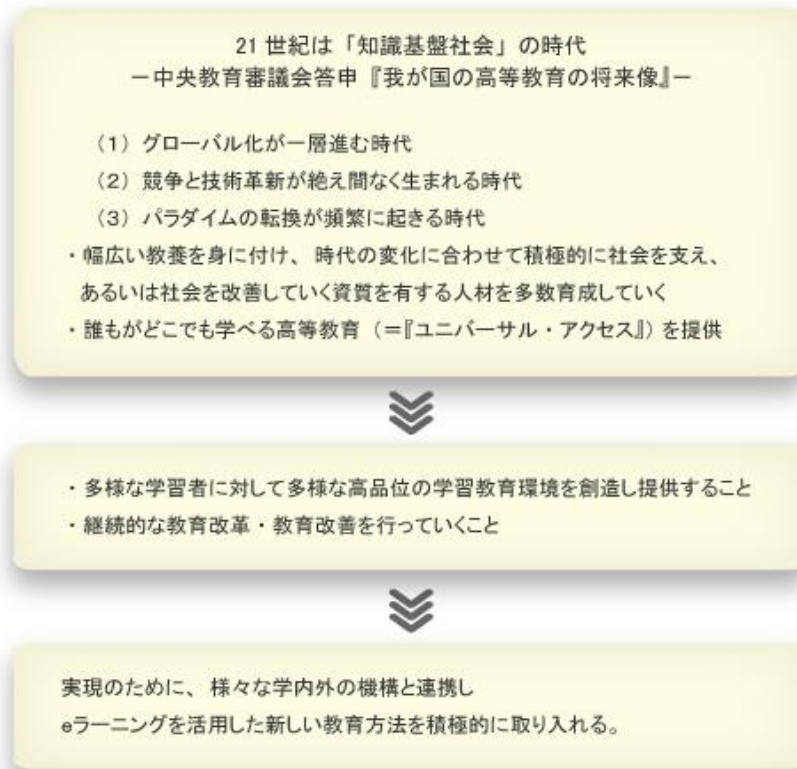


図1 明治大学ユビキタスカレッジ構想

出典：明治大学 HP：<http://www.meiji.ac.jp/ubiq/contents1/intoroduce/index.html>

具体的な取り組みとしては①多様な学習に対して多様な高品位の学習教育環境を創造し提供すること、②継続的な教育改革・教育改善を行っていくことの2点であり、これを実現するために、ユビキタスカレッジでは、様々な学内外の機構と連携し、eラーニングを活用した新しい教育方法を積極的に取り入れている（図2）。

eラーニングは、eラーニングそのものとeラーニングにて展開する科目の性質・特徴を捉えた上で、教材を作成し、正しい運営を行うことで、大きな教育効果、学習効果を得ることができる。

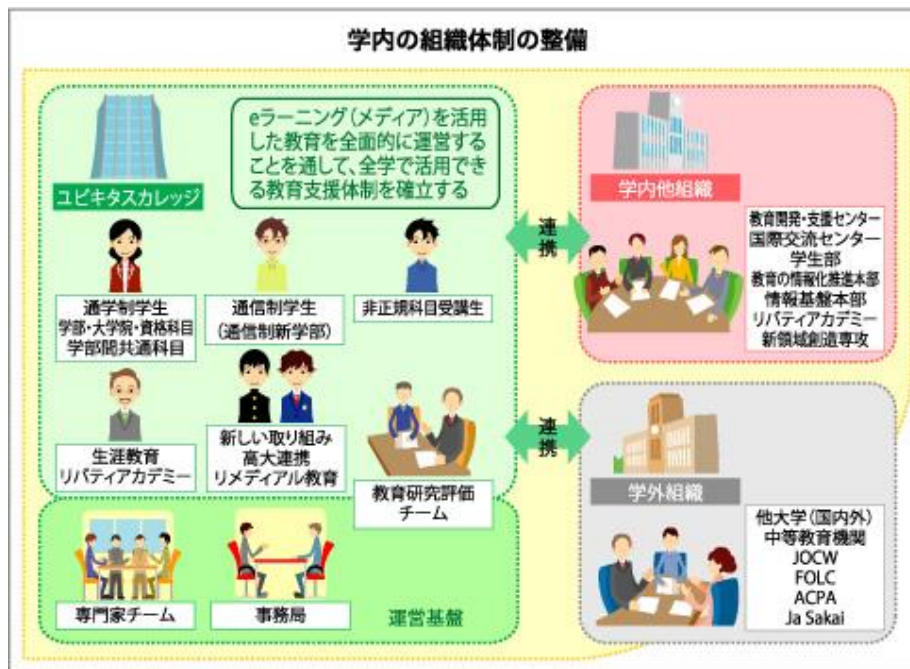


図 2 学内の組織体制

出典: 明治大学 HP: <http://www.meiji.ac.jp/ubiq/contents1/intoroduce/index.html>

ユビキタスカレッジでは、このことを実現するために、高等教育における構造問題と e ラーニング特有の問題を踏まえ、教える側と学ぶ側双方の視点から運営体制を確立し、当面は、次の 2 点を重点ポイントに置き取り組んでいる (図 3)。



図 3 教える側と学ぶ側双方の視点からの運営体制

出典: 明治大学 HP: http://www.meiji.ac.jp/ubiq/contents1/intoroduce/e_learning.html

e ラーニングでは、学生が自ら学ぶ姿勢を大切にしますが、教材が独り立ちできるように設計をする必要もある。そのため、インストラクショナルデザインに基づく授業設計を行うことになるが、いきなりすべての要素を取り込むことは、大きな負担となるため、最初

結果として、対面授業にて実施していた科目についても、授業設計をやり直す形になるため、対面授業向けの授業構成の見直しにもつながり、FDとしても貢献できる仕組みになっている。

学習者

ラーニング
コンシェルジュ

メンタ

チュータ

教員

リエゾン

ラーニングシステム
プロデューサー

コンテンツ
スペシャリスト

インストラクショナル
デザイナー

出典：明治大学 HP：<http://www.meiji.ac.jp/ubiq/contents1/intoroduce/support.html>

3 視察内容

3.1 視察・インタビュー実施事項

3 時間強ほど、明治大学における e ラーニングの取り組みに関するご説明を受けるとともに、設備環境の視察と質疑応答を実施した。

3.2 明治大学側出席者（3 部署 4 名）

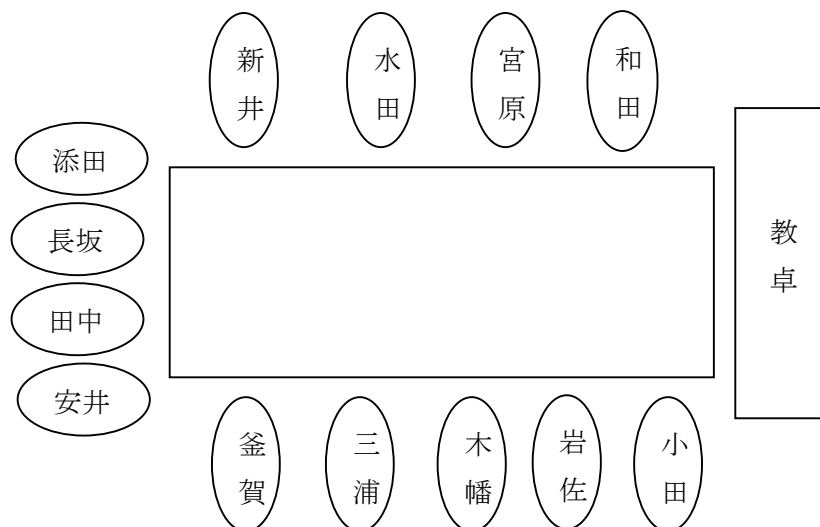
- (1) 明治大学教育支援部ユビキタス教育推進事務室 事務長：和田格氏、宮原俊之氏
- (2) 明治大学教務事務部資格課程事務室 水田悠平氏
- (3) 明治大学学術・社会連携部社会連携事務室 新井友里恵氏

3.3 視察者側出席者

	大学名	職名	氏名
1	愛知県立大学	教授	木幡 洋子
2		学務部・学務課主事	岩佐 啓子
3	桜花学園大学	学務部・教務課長	長坂 達弘
4		システム担当	田中 一夫
5	名古屋学芸大学	教授	安井 克彦
6		教授	釜賀 雅史
7		教務部・教務課長	三浦 正光
8	愛知教育大学	教育養成高度化センター長	添田 久美子
9		研究員	小田 奈緒美

*4 大学 9 名にて実施（敬称略）。

【配置図】





明治大学 3 部署担当者



視察の様子 (New education Lab 2052 教室)

3.4 視察・インタビュー議事録

＜今回の視察訪問に際し、明治大学：和田 至氏よりご挨拶の後、自己紹介を行った。＞

3.4.1 資格課程事務室

① 教務事務部資格課程事務室の取組について

＜明治大学における資格取得（学生対象）の取り組みについて、教務事務部資格課程事務室 水田悠平氏にご説明いただいた。＞

- ・ 現在、明治大学資格課程講座では、教職課程、社会教育主事課程、学芸員課程、司書課程、司書教諭課程を設け、その一部においてeラーニングによるメディア授業を実施している。（参考資料：2013年度シラバス p 12）
 - メディア授業は、司書課程および司書教諭課程においてメインに実施しており、学芸員や社会教育主事課程においては、実施に至っていない。（同上 p 90, 96）
 - 2012年度は、ほとんどの科目において、メディア授業の履修生が増加した。特に、他キャンパス（生田キャンパス）等からの受講生が増加した。
- ・ 2013年度は、8割の学生がメディア授業を利用しており、その要因としては、かなり学生に認知されたことが大きいと考えられる。
- ・ 社会教育主事は、メインで力を入れてはいないが、生涯学習として現場実習や学生発のプロジェクトの企画に取り組んでいる。
- ・ 2009年6月に司書・司書教諭課程開設10周年を記念し、図書館情報学研究会を立ち上げた。情報発信や毎月研究会を実施している。
- ・ アカデミー顧問の8階には、図書館に関する専門資料があり、活用してもらえるのが強みである。

② 質疑応答

＜資格課程に関し、質疑応答を行った。＞

- Q. 学芸員や社会教育主事では、eラーニングを検討したり、資格取得学生の養成に力を入れたりしているか。
- A. eラーニングの導入は、検討中である。学芸員の履修者数は多いが、特に文学部史学専攻の学生が中心であり、日本史や考古学等に興味を持つ学生が履修していると考えられる。
- 教員側で取得学生を増やす努力はしていない。資格課程事務室においても、リーフレットの作成にとどまっている。
 - 学生の意識として、地方自治体への就職や教職課程の社会、地歴・公民等を取得する学生が、一般教養として取得をしていると思う。

- Q. メディア授業は、対面と同じ科目を開設しているのか。
- A. そうである。同じ科目でメディアと対面の2種類を用意している。ただし、科目により同じ教員が実施する時と異なる時がある。
- Q. 全講義のうち、メディアと対面の履修状況の割合を教えてください。
- A. メディア授業は年々増えており、2012年度受講生は339名であったが、2013年度は842名と倍以上に増えている。昨年はメディア：対面＝1：4であったが今年度の割合はまだ不明である。
- 昨年までは、3限に通常授業を受講登録していた場合、駿河台キャンパス以外から移動が不可能なため、4限に授業を入れることができなかった。しかし、今年度からは登録可能となったため、受講者数が増えたと考えられる。
 - メディア授業については、対面の授業は15回中2回（第1回目のオリエンテーションと第15回目の試験時）実施し、演習を伴うものは少ない。
 - 基本的には、学生は自宅か大学のメディア教室にて受講している。
- Q. 出欠はIDで対応するのか
- A. 13回の講義を見たかどうかはチェックすることができる。動画中心のeラーニング講義を視聴し、確認の小テストか課題を提出させている。
- 受講は空き時間にしても良いが、1回の講義を受講する期間は2週間である。
 - 学生は自己制御力がない一面を持ち合わせているため、メディア授業の場合、最後にまとめて視聴するか、受講をあきらめるかの2つになりがちである。そのため、受講を促すとともに、受講期間を2週間（今週と来週）と決め、その中であいた時間に受講することとしている。
 - ダウンロードして視聴することも、著作権の関係からしておらず、ストリーミングでの配信をしている。
- Q. 毎回の小テストなど、教員の負担は多くないのか。
- A. ラーニングマネジメントシステムを使用しているため、大変ではない。小テストが多いため、教員の手を煩わせることはあまりない。
- Q. 対面授業とメディア授業では、難易度や試験結果に差はあるか。
- A. 差が出ないようにしている。体面とeラーニングでは、学び方が異なるため、教授内容も多少変えている。
- 成績で見ると、対面よりもメディア授業の学生の方が良い傾向にある。
 - 導入当初の2008年は、大学に行かなくても良いと考える、楽をしたい学生が受講を希望する傾向があったが、実際にはただ視聴するだけでは駄目で、小レポートの提出を求められることが多く、実は大変であることが学生達に浸透し、現在では学生も内容を承知の上受講するようになった。
 - 受講アンケートを見ると、大変だったとの声が多いが、一方でためになったとの声もあり、学生の反応は両極端である。

- Q. eラーニングでの実施は、大変であったか。
- A. 最初は大変であった。サポートの部分でチューターを導入することにし、5～6年で現在の流れができてきた。
- TAはあまり活用をしておらず、補助は外部委託業者に任せている。
 - 現在、チューターは3～4名/300～400名（学生）である。
- Q. メディア授業は、学芸員では実施していないのか。その理由は、eラーニングになじまず、図書館司書の方が適しているからか。
- A. メディア授業は、学芸員では実施していないが、検討中である。授業の適正ではなく、eラーニングを導入する際に、最初に挙手があったのが司書の教員であったためである。
- 中答申の内容もふまえ、多様な学生に対応するために2005年からeラーニングを導入することになった。
 - 明治大学はキャンパスが複数あり、数名の学生のために対面授業をしに教員が1時間程かけて移動する必要がある、利便性もふまえ、導入に至った。
 - eラーニングでの実施も1講義と同様のカウントとし、給与や授業数などの面で教員への措置はなかった。
- Q. 毎回の小テストなど、教員の負担は生ずると考えられるが、どうか。
- A. 学生にとってメリットがある部分に関しては、教員の負担増でもお願いするしかない。
- Q. 司書や学芸員科目の専任教員は何名か。
- A. 司書は3名、学芸員は2名である。

3.4.2 リバティアカデミー

① 学術・社会連携部社会連携事務室の取組について

＜明治大学におけるリバティアカデミー（社会人対象）の取り組みについて、明治大学学術・社会連携部社会連携事務室 新井友里恵氏にご説明いただいた。＞

- ・ リバティアカデミーでは、資格関連と同科目を実施しているが、一番異なる点は社会人が対象であることである。
- ・ 講義数も拡大路線で進めているが、基本的には本学教員の力が必要と考えており、司書講習に関しても、文学部司書課程の教員から声がかかった。
- ・ 司書実習は2005年から実施しており、現在、メディア授業と対面による夏季集中授業の2つを実施している。
 - 夏季集中授業では、全国10数校と同様、来校型で夏季に実施している。
 - 資格取得は、1日5コマ（9時～18時まで）で、2ヶ月で修得できる。
 - 社会人は、2ヶ月仕事を休むことが困難であることから、2009年よりメディア授業を導入した。

- 図書館に勤めているが資格のない方は、メディア授業が必要である。
- 演習と生涯学習概論以外は、基本的にメディア受講ができる。
- ・ メディア授業は、7/1～10月末に5科目分、11/1～2月末に5科目分を実施している。資格課程の教員は、通常は他の講義があるため、8月と3月に対面授業を実施する。
 - 対面授業は、8月に3日間集中で実施し、2月末～3月には演習を行う。
- ・ 司書科目増加に伴い、受講数は減少すると考えている。
 - 毎年、メディア授業修了者数は少ない。理由としては、通常のメディア配信を受講できないわけではなく、社会人のため仕事の関係で演習の授業に出席できず、修了時数を確保できないことにある。
 - 受講生は北海道等からもある。
 - 全体の傾向として、社会人はメディア授業、主婦等の無職の方は夏季集中講義を選択するようである。
- ・ 年度ごとに受講生を募集している。検定料は3,500円（全国10数校では3,000円～3,500円が多い）とし、定員以上の応募があった場合には審査後決定する。
- ・ 他大学で受講した単位と明大で取得するものを合わせて修得単位数を満たす場合も多く、読み替え等の事務手続きは非常に煩雑である。

② 質疑応答

＜リバティアカデミーの取組に関し、質疑応答を行った。＞

- Q. メディア授業は60～70分＋小テストで実施しているが、小テストを20～30分実施するとし、90分相当とカウントしているのか。通常は90分の授業時間が確保される必要があると思うが、問題はないか。
- A. そうである。60分程度の映像＋理解度を測る小テストを実施しているが、実際には60分で見終わっている学生はほとんどなく、それ以上の時間を視聴しているため、問題ないと思う。
- 文科省にも、コンテンツおよびテスト問題を確認してもらい、90分に相当することを承認いただいた。
- Q. 単位認定は、社会連携事務室で行っているのか。
- A. そうである。ただし、書類受付や講座の準備、出欠管理や印刷等に関しては、業務委託先に任せている。
- 定員は夏季集中で120名、メディア授業で100名である。
- Q. 司書講習は、教務関係ではなく、エクステンション（生涯学習、図書事務室）が単位認定も含め担当することが多いようであるが、どうか。
- A. 文科相の管轄により異なり、高等教育局と生涯学習局が該当する。
- Q. 司書講習のメディア授業には、課程のコンテンツを流用しているのか。

A. そうである。

- 通学生は ID とパスワードで受講できるが、司書資格は国家資格であるため、社会人には指静脈認証を行っている。
- 指認証は偽造される恐れがあり、静脈認証では機材が大きすぎるため、指静脈認証を使用することとなった。
- 機材を受講生に購入してもらうには高額なため、110 台をレンタルしている。
- 光が入ると認識されないなどのトラブルも多くみられるため、この機材が最良とは言えない。
- ・ 申し込み人数が 100 名以上の場合には、提出してもらった小論文を 3 名の教員が点数をつけ、成績順に合格を決める。
 - 採点する教員には、謝礼を支払っている。ただし、学内非常勤であるがそれ以外に授業数を少なくするなどの優遇はされない。
- ・ 桜美林大学の教員免許更新講習では、フル e ラーニングを使用しており、顔認証＋音声にて特許を取得しているため、それらの方法でも効果的かもしれない。
 - ただし、音声は数字のみの認識に限られるため、小テストなどは 4 択のうち番号を答えさせる（1 番とか）方式となる。
 - 日立製作所が作成しているため、使用料を支払う必要があるかもしれない。
- ・ ドイツ・オランダを視察した際には、ロシアの e ラーニングを用いて実用化しているようであった。
- ・ メディア授業では、出欠にも指静脈認証を使用している。
 - 大学が生体認証を持って良いか等も大学の弁護士とも相談したが、問題ないとのことであった。
 - Google の 2 段階認証なども、効果的かもしれない。

3.4.3 ユビキタス教育推進事務室

① 教育支援部ユビキタス教育推進事務室の取組について

＜明治大学における e ラーニング関連全般について、明治大学教育支援部ユビキタス教育推進事務室事務長 和田格氏および実務者宮原俊之氏にご説明いただいた。＞

- ・ この教室（2052）は、文部科学省・平成 24 年度「私立大学教育研究活性化設備整備事業」の一環として、学生の復習用コンテンツ（フォローアップ講座）を収録できる教室として新しく作った。
 - 壁面はホワイトボード加工されており、意見やアイディアを書くことができる。また、机・椅子は可動式でグループワークもしやすい。
 - 海外との相互学習を連携授業としても実施している。
- ・ 他大学との TV 会議も可能であるが、実現はしていない。
 - 単位認定の方法を整理した後、実施したい。

- 例えば1つの講義をA大学は対面、B,C大学はメディアにて実施する場合、同じ授業であるのにA大学は対面、B大学はメディアとの認定となってしまう点などについて、今後文科省と相談する必要がある。
- ・ 2005年頃から、eラーニングや遠隔教育を発展、定着をはかりながら進めている。
- ・ ユビキタスカレッジの運営委員会では、委員長に副学長を置き、年2〜3の予算等方針を決める会議を実施する他、委員は10名程度の教員により構成されている。
 - 推進事務室は、事務長含め6名で運営をしており、実地を担っている。
- ・ メディア授業（eラーニングを活用した生気科目）は、2007年度後半より教職1科目から開始した。
 - 2012年度は、資格課程15科目、経営学部2科目、司書講習14科目を実施した。
 - 年間のべ1300名程度（2012年度実績）の受講生まで拡大している。
 - 2013年度は資格課程の受講生が約340名から約840名へと2倍以上に増加した。
- ・ 2005年当時は、他大学に比べて導入が遅れていた。教員が楽をする、学生が続かないなどの意識もあり、失敗しないよう2年をかけて検討した。
 - 現在では、eラーニングの効果が、対面の授業の見直しにも繋がっており、良い影響を及ぼすまでになった。
- ・ 2013年度より、新システムによる運用を開始した。
 - 2005年から6年間使用したシステムは、windowsのみの対応の上重いなどのデメリットがあったため、改善をした。
 - メディア授業は、学生はIDとパスワードで管理するため問題はないが、社会人は個人情報指静脉認証にて把握することとしたが、一般に販売していないなどの面で弊害もある。
- ・ メディア授業には、印すとあくショナルデザインなどを導入し、効果的な教育効果をはかる工夫をしている。
 - 大学内セミナーやワークショップを実施している。これらの取組を継続することによる意識向上を目指しているが、一度に全てeラーニングへ変更することは考えていない。
- ・ 現在、学生の孤独感を改善するためにサポート体制を充実することに力を入れている。
 - 教員と学生の間に「ラーニングコンシェルジュ」をおき、全ての学生対応を受けるスタッフを置いた。
 - ラーニングコンシェルジュは、業務委託先の（株）内田洋行から常時2〜3名でまわしてもらっている。主に、学習支援を担当する。
 - チューターは3名、（株）内田洋行に業務委託している。司書は、司書の方や、講習を修了した資格取得者から採用している。
 - 業務委託先の学研教育出版からインストラクショナルデザイナーは助言を行

うが、教員に直接助言することではなく、同委託先のリエゾン（コントロールする役割）を通して意見を伝えている。直接デザイナーと教員間でトラブルが発生したため、改善・解決した。

- ヘルプデスクも、業務委託しており、運営を担当している。
- ・ 業務委託が多く（ラーニングコンシェルジュ、チューター、リエゾン、インストラクショナルデザイナー、コンテンツスペシャリスト）、ノウハウが大学にたまっていかない点が課題である。
 - 内部に専門家がおらず、企業との共同出資会社の設立も検討したが、採算が厳しいため断念した。
- ・ メディア学習者は、単位取得率・成績ともに、対面授業履修者と同等の水準を維持しており、学習支援体制は確立されつつある。
- ・ コストの問題も毎年話題に上るが、2008 年度と比較すると 10%程度まで下がっている。
- ・ 2011 年度より、e ラーニングを活用した大学入門講座なども実施している。
 - スポーツ遠征などの際には、e ラーニングは活用しやすいためである。
 - チェックテストにおいても、英語、国語ともに正當数が向上した。

② 質疑応答

＜明治大学における e ラーニングの取組全般に関し、質疑応答を行った。＞

Q. e ラーニングにかかるコストが一番多いのはどの部分か。

A. 現在、学習支援に一番コストがかかり、その理由は業務委託に頼っているためである。

- コンテンツはその都度支払うが、業務委託会社には、人件費が伴うため分割払いをしている。

Q. メディア授業と対面授業では、実施内容が異なるのか。

A. メディア授業は、対面授業とは異なるようにしている。例えば、前後にコメントを入れる等のメリハリをつけている。

- 例) 今日の授業の目的は、〇〇がわかることです/まとめは△△です。など

・ e ラーニングは、1 つのツールとして考えており、それ自体に学習効果があるわけではない。

- 対面授業を e ラーニングで実施した場合、学習効率が上がるか、学習効果は上がらない。

Q. インストラクショナルデザイナーは必要か。

A. しっかりとデザインできる人ならいた方が良くと思う。

- 明大では、コンテンツ制作会社のインストラクショナルデザインのできる人にコンテンツを制作してもらっている。
- 単位認定や内容などにも関わる部分も含まれる。

- 協力者には、謝礼は1コマ相当分を支払っている。
- Q. インストラクショナルデザインにも各理論があると思うが、どのようなものをメインに考えているのか。
- A. 各種理論はあるが、厳密にはあまり使っていない。
 - 教員の抵抗も強いこともあるが、そこまで教員に求めると大変であるため、それほど手法は使っていない。
 - 委託先の、教育コンテンツを制作した経験のある人などに入ってもらっている。
 - 青山学院大学にてインストラクショナル育成講座を開講しているため、委託先(子会社)の方には、講座に出席してもらい、その知見を適宜いかしてもらっている。
- Q. 東京ではインストラクショナルデザインの専門家も多いであろうが、愛知ではあまりいないと思う。その場合、何を重視してコンテンツ制作をすれば効果的か。
- A. 東京であっても、CM制作などが得意な会社は多いが、教育関連は少ないので悩みどころである。
- Q. チューターは在宅か。
- A. そうである。在宅でメールにて連絡をしている。質問への回答時間等も24時間以内など決めてある。
- Q. 100通程くるメールでの質問はどんな内容が多いか。
- A. 今までは、システムに関する質問が多かったが、現在は授業内容についての質問が多い。
- Q. 質問内容は、コンテンツ上の不備によるものか。
- A. 半々である。常識で判断できるような内容から、システム上の問題(小テストの採点ミスとか)まで多岐にわたる。
 - チューターは質問に対する直接的な答えは行わない。採点ミスなどは教員と対応する。
 - 質問には、基本的には個別対応だが、全体に向けて発信する必要がある場合には、掲示板を使用する。
 - 同じ質問が合った場合なども、サポートからお知らせしている。
- Q. eラーニングにすると、教室数などは減るか。
- A. 現在の10数講座では全く影響を受けないが、講座数が増えれば減るであろう。
- Q. 掲示板は、炎上や個人情報の観点から大変な面もあるかと思うが、どうか。
- A. 学生間で意見交換をしたいという要望を受け、立ち上げたことはあるが、大学の管理するツールは使用したくない学生が多く、1年でやめることとなった。
 - (必ず書き込ませるなど)仕掛けをしたものであれば、成功するとのことである。ただし、自由に意見交換するまでには半年程の期間を必要とする。



収録スタジオ準備室



講義コンテンツの一例



収録スタジオ（個室）とスタッフ

4. まとめ

- ・ 2013 年度は、8 割の学生がメディア授業を利用しており、その要因としては、5 年ほど実施する中で、経時的に学生に認知されたことと、履修の利便性を図ったことの 2 点が考えられる。
- ・ 教員の負担は、それ程多くない。小テストなどもラーニングマネジメントシステムを利用しているため、教員の手を煩わせることはあまりない。また、学生からの質問もそれ程多くない。
- ・ 成績で見ると、対面よりもメディア授業の学生の方が良い傾向にある。
- ・ 視聴教材のダウンロードは、著作権の関係から実施しておらず、ストリーミングでの配信のみである。
- ・ e ラーニングを受講した学生の反応は、受講アンケートによると、「大変だった」との

意見が多いが、一方で「ためになった」という意見もあり、反応は両極端である。

- ・ 専任教員は、司書は3名、学芸員は2名である。
- ・ 司書講習（メディア授業）の単位認定は、社会連携事務室で行うが、書類受付や講座の準備、出欠管理や印刷等に関しては、業務委託先に任せている。定員は夏季集中で120名、メディア授業で100名である。
- ・ インストラクショナルデザインは、厳密には使用していないが、委託先のコンテンツ制作会社には、インストラクショナルデザインのできる人にコンテンツを制作してもらっている。
- ・ eラーニングにかかるコストでは、学習支援に一番コストがかかり、その理由は業務委託に頼っているためである。

5. （参考）司書講習（メディア授業）ガイダンス視察内容

<明治大学アカデミーコモンにおける司書講習ガイダンスの様子を視察させていただいた。>

5.1 視察実施情報

1. 調査日時	平成25年6月29日（土）9：30～16：00（3H）
2. 視察先	明治大学 アカデミーコモン 11階 311C教室 〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 TEL:03-3296-4458 FAX:03-3296-4525
3. 参加者 (1名)	・愛知教育大学 大学間連携共同教育推進事業 研究員 小田奈緒美

5.2 参加者

- ・ 参加者は79名（うち男性7～8名、女性が9割）、年代は、40代前後が多い。
- ・ 実務経験のある（現在司書業務をしている）方が多いとのこと。

5.3 大学側スタッフ

- ・ 受付3名、司会1名、補助3名＋システム説明者1名、講義者1名、計9名。
- ・ 内田洋行より、ラーニングコンシェルジュ2名、チューター3名も途中参加あり、各自挨拶を実施。

5.4 実施概要

- ・ インターネット受講の手続きとして、ログイン方法、質問の仕方、閲覧方法、レ

ポートの提出方法など基礎的な説明を実施。

- ・ 静脈認証は、パソコン 3 台＋チェック用 1 台計 4 台使用し、30 分程で終了した。

5.5 受講生とのやりとり状況

- ・ 3 日で 200 通程メールをやりとりするペース。（お知らせ、励まし等含む。）
- ・ 学生からは、あまり質問がないが、社会人からの質問は多い。
- ・ システム的な質問が多く、授業内容への質問はあまりない。
- ・ 体調不良（家族含む）でやめる方も多い。

5.6 まとめ

- ・ 学生および教員対象であれば、本プロジェクトでは、ガイダンスはなくても可。
- ・ 使用方法のみ、HP および第 1 回オリエンテーションで説明すれば十分である。（ただし、レポート提出資料などすべてダウンロードするため、教員を対象とする場合、基本的なパソコン知識とワード、エクセル、PPT が使用できる必要がある。）
- ・ 明治大学では、受講生の不安を改善するためにガイダンスを開き、途中の懇親会で友人を作りやすくし、受講継続しやすくしているとのことである。



ガイダンスの様子（アカデミーコモン 311C 教室）



指静脈認証システム

以上